

平成30年 11 月 21 日開催 JGS 宝石シンポジウム

## 《宝石学から考える「宝石の国」の宝石たち》レポート

内藤 由香

今回の JGS 宝石シンポジウムは古屋正貴氏(日独宝石研究所 所長)による宝石学の観点から人気のファンタジーアクションアニメ「宝石の国」に登場する宝石を見ていくというものでした。「宝石の国」を見たことがない私は、どのような切り口で宝石についてご講義頂けるのか興味を持ちながら参加させて頂きました。

「宝石の国」とは市川春子による長編作品で、テレビでも放映された人気アニメ作品です。登場人物は 28 人の宝石の体を持つ人型の生物から成り立っており、彼ら宝石を宝飾品にしようと襲いかかる「月人」に立ち向かうため、それぞれの鉱物の特性にあった戦闘能力を用いて宝石たちが戦いを繰り広げる物語だそうです。(資料:Wikipedia)



古屋先生は、このアニメに出てくる 28 石のうち、10 石の宝石を取り上げ講義して下さいました。この物語の主人公はフォスフォファイライトという宝石であり、私には全く馴染みのない石でした。一般的にも知名度の低く、ここ最近アニメの影響で急速に人気

が高まっている宝石のようです。フォスフォファイライトが以前はあまり知られていなかった理由はそ

の脆さにあり、ボリビアのポトシ地区で産出されたものは宝石質で大変美しいが、硬度 3.5 のため、ファセットカットされた大きいサイズのものほとんど見かけないといえます。そんなフォスフォフィライトはアニメの中でもひと際脆く、すぐに碎けてバラバラ(碎けても後から修復される)になってしまい、脆いために全く仕事を任せてもらえず役立たないキャラクターだそうです。

その他にも一般的によく知られている物からマニアックな石まで、様々な宝石の特性とモチーフとなっているキャラクターを説明して下さいました。キャラクターの金剛先生(六方晶ダイヤモンド、ロンズデーライトがモチーフ。ロンズデーライトはダイヤモンドの積層欠陥や双晶の境界面に存在する)、毒をはく体質の辰砂(HgS、硫化水銀(II)からなる有毒な鉱物)、海が凍る冬の警護を担当するアンタークチサイト(CaCl<sub>2</sub>・6H<sub>2</sub>O、南極大陸ドンファン池で発見された 25℃で融解する鉱物)など、かなり作者は鉱物に対して詳しい知識を持って書かれていると古屋先生も仰っていました。

改めてこれらの宝石の特性を知り、理解を深めた上で「宝石の国」のアニメを見てみたいと感じました。

後半は、講義して頂いた宝石サンプルを実際に見るというものでした。回ってきた宝石サンプル中には、なかなか手に取って見ることができない鉱物もあったので、大変興味深く拝見させて頂きました。主人公のモチーフとなったフォスフォ



フィライトはミントグリーンの大変透明度の高い美しい石でした。劈開性があるため宝石として使えないのが非常に残念に思われるほどでした。辰砂は Dragon blood と呼ばれる通り、毒々しい色

ではあったものの、カットされたものは非常に照りがよく、希少なものを見せて頂きました。その他にも、六方晶ダイヤモンドやバイカラーのユークレースなど、「宝石の国」で使われるのも理解できるどれも魅力的な石ばかりでした。

最後に値段が伏せられている何点かの宝石を落札する疑似オークションが行われました。話



題のフォスフォライトブやブルーダイヤモンドなどが出品され、皆さん積極的に参加され、多いに盛り上がりました。

このようなユニークな学びの場を作って頂きましたことを感謝いたします。